せやふれあいの庭

# 福島県双葉郡川内村訪問報告書（2017/6/1）

↑１日の午前中は仮設で出会った方の家の訪問をしました。行く道の途中に見られた風景です。左 2 枚の写真は廃墟です。何からの理由で帰ることのできなかった方の家です。朽ち果てている牛舎？と建物が美しい緑の中にありました。右 2 枚は帰ってきた方の家の写真。隣の畑にはレインコートを着たマネキンの案山子が…このように中心区の 5 区に行くまで山の中には廃墟が多く 5 区へ近づくにつれて住居が増えてきます。あいにくの雨でしたが雨にうたれた緑はとても美しかったです。

丘の上チャペルの西小野牧師、白石姉と合流し、午後１時前に五社の杜サポートセンターに到着しました。そこには南一丁目仮設の方々が既に椅子に座って待っていて下さっていたのです‼思わず走り寄り手を取り合ったり握手をしたり、満面の笑みでの、またうれしい涙での再会でした。この写真の風景は仮設ではなく彼らの故郷川内村でのものなのです。仮設から帰った後、一度も皆で会うことはなく、この日帰村後初めての同窓会？だそうです。一人の婦人の方が皆に連絡を取って実現に至りました。故郷の空気の故なのでしょうか、皆、顔つきがすっきりしていました。藤木先生が音楽療法を始めると「待ってました」とばかりに皆が「知ってる知ってる」とニコニコしながら音楽療法に入っていきました。圧巻だったのはスタッフと一対一になって「茶摘み」の歌を歌いながら手遊びをした時です。写真撮影者も参加した為その写真をお見せすることはできませんが、最高潮に盛り上がった時でした。終了後のお茶の時間はこちらから持参した手作りケーキと、婦人の方が作った「山フキの煮物」でお茶の時間を持ちました。皆、次回を楽しみにしていました。今回若宮前の方々まで情報が徹底されなかったため、次回は皆が伝えると言ってくださり、私たちは急遽メモを手書きでたくさん書いて託しました。

しかし、自治会長の志田さんから聞いた現実は厳しく、復興の為に来ていた職人は帰り、住宅は空きが多くなっている、また高齢者は帰ってきてもやることがない。すでに数件から「お米がないのだが。」という相談を受け入れている、等々。

また放射線量は、国は大丈夫だと言っているが、換算量の方式を変えて調べてみると、とんでもなく多い放射線量を毎日浴びていることになる、その数字たるや、相当な量で「俺、もうやんなちゃうよ、おかしくなっちゃうよ。」と正直なお気持ちを分かちあってくださいました。志田さんは今後もふれあいの働きに協力して下さるそうです。

↓Ｇさん宅を訪問。留守でしたので置き手紙を書く藤木先生とＧさんの庭に咲いていた花々と田植えの終わった水田風景。Ｇさん宅付近の家々には、商店だったであろうと思われる看板が多く残っています。

中心区の 5 区には新しい商業施設ができていました。Family Mart、薬局、多目的ホール、クリーニング、ラーメン店等々。ファミマでは生鮮食料品から生活用品まで大抵のものはそろっています。ビジネスホテルの案内や復興振興券などのポスターも見られました。テレビの天気予報の次には必ず放射線量が映し出されます。帰村したとはいえ、これがここで住む方々の現実です。

五社の杜サポートセンターでの音楽療法終了後、私たちはすぐ近くにある社会福祉協議会がある川内村デイサービスセンターへ向かいました。仮設におられた方々はデイサービスにも行っておられたりするので、そこでも再会できるように音楽療法をさせていただきたいという思いがありました。スタッフの方は面談で、「是非お願いします。」と快諾して下さり、藤木先生たちは年４回のスタッフと一緒の訪問とは別にふれあいの庭から派遣という形でここを訪問することになりました。丘の上チャペルの西小野牧師とも協力体制をとります。この写真の窓からみえるところすぐが「20 キロ圏内外」の線引きがあるそうです。震災の時はここを境に多くの被災者の方々が集まり、ドアで放射線量を測られ、入れない人と入れる人に分けられたとか。川内村だけが村内で 20 キロの分断をされた村だそうです。また、その後、床は全面張替えとなったそうです。「本当に大変だった」と当時の担当者の方はしみじみ言っておられました。

仮設から川内村へと次のステップに入りました。新しい事も始まりました。皆様のお祈りご支援心より感謝申し上げます。皆様の祈りと共に主に導かれて進んでいきたいと願っています。今後共、どうぞよろしくお願い致します。

**「時がくれば、祝福に満ちた、ただひとりの力あるかた、もろもろの王の王、もろもろの主の主が、キリストを出現させてくださるであろう。」**

Ｉテモテ６：15 口語訳